

## 第 15 回（令和 2 年度第 4 回）公立大学法人公立小松大学経営審議会 議事概要

- 1 日時 令和 2 年 12 月 16 日（火）13 時 30 分～14 時 30 分
- 2 場所 中央キャンパス 2 階会議室
- 3 出席者  
石田委員長（理事長）、山本副委員長（学長）、横川委員、西委員、鈴木委員、千葉委員、岡本委員、東野委員、早松委員  
監事  
松本監事、能登監事  
欠席者  
山崎委員
- 4 議事
  - (1) 前回議事概要の確認  
委員長より前回会議の議事概要について報告。全員異議なく、原案どおり議事概要を確定した。
  - (2) 審議事項
    - ① 教員人事について  
山本副委員長より、資料 2 に基づき、教員人事について説明があった。審議の結果、全員異議なく承認した。
    - ② 職員給与規則の改正について  
千葉委員より、資料 3 に基づき、職員給与規則の改正について説明があった。審議の結果、全員異議なく承認した。
    - ③ 大学院の設置認可申請について  
山本副委員長より、資料 4 および追加資料に基づき、大学院の設置認可申請について説明があった。早松委員より、ヘルスケアソリューション専攻について、学士課程の看護学科と臨床工学科が 1 本化したように見え、専門は違うが共通の修士課程の活動を行うという見解でよいのかとの質問があり、これに対して山本副委員長より、現場ではチーム医療のため総合的、融合的に広い視野を持って学修を進めることを目的にしているので同一専攻としたとの説明があった。また、鈴木委員より、

学外向け説明資料の中で「サステイナブル ソリューション研究科」の日本語名称について、必ずしも英文名称を正しく表しているものではないのではとの指摘があり、委員長および山本副委員長より、Solution には「融合」との意味もあり「課題解決」との日本語表記ではなく、ソリューションというカタカナ表記を採用したとの説明があった。東野委員からは、ドクターの多くは就職ができないニュースを聞くが、公立小松大学ではどう対策するのかと質問があり、山本副委員長より、将来ドクターコース（博士後期課程）を設ける場合にはオーバードクターを出さないよう、研究職や教育職を希望する人を中心に募集定員を設定するなど工夫したいと回答があった。また東野委員より、学部の卒業生に関しては、公立小松大学は他大学と比べてどのような違いがあるのか一般の方にわかるよう強調してほしいと意見があった。審議の結果、全員異議なく承認した。

### (3) 報告事項

#### ① 令和2年度決算見込みについて

千葉委員より、資料5に基づき、令和2年度決算見込みについて概要の報告があり、事務局松本財務課長より、詳細な説明があった。西委員より、平成30年度の段階で寄付金の取り崩しの予定はどうであったのか質問があり、事務局松本財務課長より、当初約3億8,000万円取り崩し、令和2年度末に約2億6,000万円残る計画であったが、現状では令和2年度末に約5億1,000万円残る見込みであると回答があった。

#### ② 栗津キャンパス大学院棟整備について

千葉委員より、資料6に基づき、栗津キャンパス大学院棟整備について説明があった。

### (4) その他

#### ① 大学の現状について

山本副委員長より、11月に地域推薦入試が行われ、定員の倍の志願者数があり、全ての学科で募集人員を確保できたと報告があった。今後の入試に向けて、新型コロナウイルス感染症の感染者発生を防ぐため、1月8日から14日まで原則オンラインで授業を実施することについて説明があった。